



環境活動家グreta・トゥンベリさん
(ロイター時事)

異常気象による被害が全世界から報道されています。大寒の時期に入った日本でも暖冬となり、雪を期待している各地からも不安の声が聞こえてきます。21日、スイスで世界経済フォーラム(ダボス会議)が開催され、スウェーデンの少女グretaさんが、気候変動、地球温暖化の危険を訴えました。彼女の問いかけが現実的になっていると感じる昨今です。

また、新型のウイルスによる**感染症**が発症し、人間の体内で変異していき、感染力を高め、治療法もまだ見つかっていないというニュースも毎日のように報道されています。

地球規模で環境が病的になっていると思わずにはいられません。若い世代にとっては夢も希望も持てない、不安で危険な状況が急速に忍び寄ってきているのです。地球という全体像を捉える

ことが出来ないほど巨大なものも、病んでいる。自然は、ひとたび限度を超えたら、不可逆的になると言われます。また、**世界終末時計**という核兵器などによる人類絶滅までの残り時間を象徴的に示す時刻は、終末の2分前を指しているといえます。この時計は修正されることがあります。

人類はいつまで生きられるのでしょうか。聖書は必ず「**終わりの日**」が来ると告げています。その日は恐ろしい絶滅の日ではなく、イエス・キリストが来られる日、正義と平和がもたらされる日として、待たれている日なのです。今日、この日も、私たちは「**終わりの日**」に向かって進んでいますが、核兵器の不安、自然環境の不安の中で生きています。時間は進みます。修正できるうちに修正しなければなりません。地球はガンで言えば、ステージ IV-a の状態なのでしょうか。

地球規模の話から、急に個人のレベルに話しを変えますが、今日、夫は悪性リンパ腫のために、抗ガン剤治療を6クール、すべて受けて、何とか退院でき、一年が経った記念日(?)です！一年前の退院の日に、主治医は「退院おめでとう」とおっしゃってくれましたが、「今後も三カ月に一度検診して様子を診ていきます」という条件がありました。「厳しい抗がん剤治療だったために、順調に回復して一年経てば、回復度は七割くらいでしょう」と言われました。

退院直後は貧血状態も激しく、立ち眩みのようなふらつきに苦しみました。また、体全体がだるくて動かせませんでした。夏には激しい夏バテに陥り、身動きがとれませんでした。時間が経っても眩暈は続き、しびれが取れず、指先がうまく使えません。立ったり座ったりするたびに足がひきつる違和感があるといえます。急に突発性難聴になり、耳鼻科にかかり、良くならないため脳神経科にも行き



ました。おかげで脳梗塞、脳出血、アルツハイマーの心配は全くなないとわれ、これには安堵したものです。また、腸の筋力も低下したのでしょうか、お通じが以前と全く違うと言います。夫はもともと丈夫だったためか、異常な事態に不安を隠しきれません。二度ほど主治医に相談の電話をしたほどでした。けれども、検診を受ける度に、主治医から「良くなってきていますねえ！」とのお言葉を頂き、良い経過過程にあるのだと感謝しています。

お正月には二年ぶりに元旦礼拝に家族と共に参加し、昼には皆でお節料理を食べ、新しい年に大いなる期待を抱いています。幸せな「**終わりの日**」を目指して、いま、努力中です。